

診断は問診が8割

札幌市医師会
（公財）北海道労働保健管理協会 札幌総合健診センター

なかむら かずひろ
中村 一博

今から40年も前のことですが、大学の先輩から「病院の中で最強の科はどこか」を教わったことがあります。先輩曰く、「病理科が最強、2番目が外科、内科は3番目」で、その理由を訊ねると、「病理科は病理解剖で診断を確定できるし、外科は手術で直接病巣を見ることができるが、内科は体外から検査して想像するしかない」からだそうです。その当時はエコーやCTはできたばかりで解像度が低く、MRIはこの世にありませんでした。その論法でいけば、受診者さんに合わせて検査も組めない健診科は最弱ということになります。

自由に検査を組めない健診医にとって、残された武器は問診です。臨床医だったとき循環器疾患や糖尿病の患者さんを多く診ていたからかもしれませんが、私が担当した健康診断の問診でよく見つかる疾患は、冠攣縮性狭心症、発作性上室性頻拍、そして反応性低血糖です。いずれも発作性の疾患で非発作時には何の異常所見も認めませんが、発作時には深刻な症状が出現します。

冠攣縮性狭心症の特徴は、ストレス、喫煙、飲酒などが誘因になり、発作が安静時、特に夜間や明け方に多く出現し、胸の真ん中が締めつけられるようにギリギリと痛み、その痛みが頸部や下顎、上腕にも広がるといふものです。発作を起こす前に、胸にニヤニヤとした軽い痛みを感じ、患者さんによっては「発作の予感がする」と表現する人もいます。発作中は「救急車を呼ぼうか」と思うほど痛いのですが、数分から数十分でスーッと痛みが消えて、スッキリしてしまいます。非発作時には心電図に何の異常も認めませんし、ホルター心電図検査をしても発作中の心電図を捉えることはめったにできません。

発作性上室性頻拍は、頻脈が突然出現し、ある程度長時間続き、迷走神経を刺激するようなことをすると、突然止まります。突然始まり、突然止まるメリハリのある頻脈なのです。頻度もまちまちで、週に何回も発作を起こす人もいれば、年に数回しか起こさない人もいます。発作時には心拍数が150～250bpmくらいまで上昇するので、ひどいときには血圧が低下し失神することもあります。私の患者さんに、駅のプラットホームで発作を起こし失神して線路に転落したことがある、という人もいました。これもWPW症候群によるものでなければ、非発作時の心電図には何の異常もありませんし、ホルター心電図検査で発作中の心電図を捉えることはめった

にできません。患者さんの中には経験的に自己学習して、冷たい水を飲んで発作を止めているという人もいました。冷水を飲むことによって迷走神経が刺激されるのです。

反応性低血糖では、糖尿病治療薬を使用していないにもかかわらず、食後に冷汗や強い倦怠感などの低血糖症状が出現します。甘いものをたくさん食べる人に多く、食事の刺激によってインスリンが過剰に分泌され、低血糖を起こすというものです。倦怠感がひどくて危険なため、食後は自動車の運転をしないという患者さんもいました。75gOGTTの採血を負荷後2時間で止めず、負荷後5時間まで延長して検査すると、インスリンの過剰分泌と低血糖を観察できます。通常は非発作時の血液検査に異常を認めませんが、糖尿病の前駆症状のこともあるので、このような症状の患者さんを診たら、糖尿病専門医へ紹介してあげてください。

3つの疾患に共通するのは、非発作時には何の症状も無く検査所見にも異常を認めないことです。これらの疾患は30代から50代の働き盛りの人に多いという印象を受けます。この世代の患者さんは発作を起こしているときに、都合よく受診できるほど暇ではありませんから、非発作時に受診し「何ともない」と言われてしまいます。仕事のストレスのために冠攣縮性狭心症を起こす患者さんはたくさんいますし、残業で夕食が遅くなるため夕方に甘いおやつを食べるなど、多忙が原因と思われる反応性低血糖の患者さんもいました。問診の時に仕事の内容やライフスタイルまで聞かないと、なかなか診断にたどりつけません。

健康診断の問診と診察は1人につき2分以内です。ですから、この3つの疾患についても問診の時に受診者さんの方から相談されることがほとんどです。冠攣縮性狭心症や発作性上室性頻拍についてはホルター心電図検査までして「何ともない」、反応性低血糖では非発作時に血液検査をして「何ともない」と言われ、困り果てて健診医に相談しているのです。たしかに非発作時には何ともないのですが、発作時には日常生活が困難になるほど重篤な症状が出現します。3つの疾患とも、その特徴を意識しながら問診すれば、必ず診断に結びつくはずですが、そして、きちんと診断し治療すれば、発作は予防可能なのです。どうか、これらの疾患を見つけて専門医へ紹介し、患者さんたちを助けてあげてください。